



写真:ヒラタケ (撮影:平成30年2月25日)

「ヒラタケ」

冬のキノコ

一年で最も寒さの厳しくなるころ、春の訪れを待つように森はしんとし、聞こえるのは空を舞う鳥の鳴き声と、歩を進めるたびにシャリシャリと霜柱が砕ける音。そんな冬の森の中、倒木にたくさんキノコを見つけました。「寒茸^{かんたけ}」、宮崎県内では「かんなば」とも呼ばれる冬が旬のキノコ「ヒラタケ」です。手のひらサイズにもなる大きなキノコで、重なるように発生するため迫力があります。一本の倒木から多数発生することが多く、まさにその倒木はキノコのなる木となります。以前は「シメジ」の名で広く流通していましたが、多種の流通拡大に押され目にすることも少なくなりました。しかし、栽培が容易なため現在でも家庭栽培用キットが販売され、身近なキノコであることに変わりません。雪が降れば真っ白な帽子をかぶったヒラタケと出会うかもしれません。その姿はかわいらしく、逆に力強さも感じさせ、霧島山を構成する魅力的な生物であることを実感させられます。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

ヒラタケ
Pleurotus ostreatus

ハラタケ目 ヒラタケ科

